令和２年度　臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：咀嚼補綴科

第３期中期目標･中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可）

□１．口腔領域における新規組織再生・再建法の開発
■２．高齢者の特性に配慮した口腔疾患の予防法・診断法・治療法の開発
□３．顎口腔機能の維持増進に関する研究
□４．歯科医学臨床教育の質保証に関する研究
□５．その他

研究期間：2020 年 7 月 8 日～2025 年 3 月 31 日

研究課題名：歯科疾患・口腔機能と健康長寿との関係

研究課題の概要及び成果：長寿は，遺伝的要因，生活環境，社会経済的要因，精神的・身体的健康習慣，疾患の治療歴などが複雑に絡み合って達成できると考えられる．口腔機能は，認知・運動機能，全身疾患に関わっていることが報告されており，口腔機能の維持は，長寿への大きな要因一つであると考えられる．本研究では，歯科疾患や口腔機能が，認知・運動機能，全身疾患，血中老化物質，老化にどのように影響するかについて，縦断研究によって明らかにすることを目的としている．

本年度は，自立した高齢者 951 名（74-78 歳（70 歳群）466 名，82-85（80 歳群）歳 391 名，89-95 歳（90 歳群）94 名）を対象に 3 年間の追跡調査を行ったデータを用いて，口腔機能（咬合力，舌圧）と加齢との関連を検討した．年齢，性別，歯数を調整した線形混合モデルの結果，加齢は咬合力に有意な関連を示さなかった．しかしながら，加齢は舌圧と有意な関連を示し，加齢とともに舌圧は低下していくことが明らかとなった．また，年代ごとの階層分析を行った結果，咬合力と加齢は，どの年代においても有意な関連を示さなかったが，舌圧と加齢は，どの年代においても有意な関連を示し，低下量は年代が高いほど大きいことが明らかとなった（図 1，2）．

上記概要・成果に関連する図表等

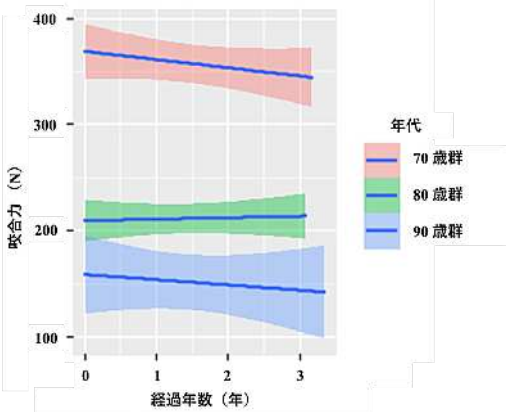

図１　年代ごとの加齢による咬合力の変化

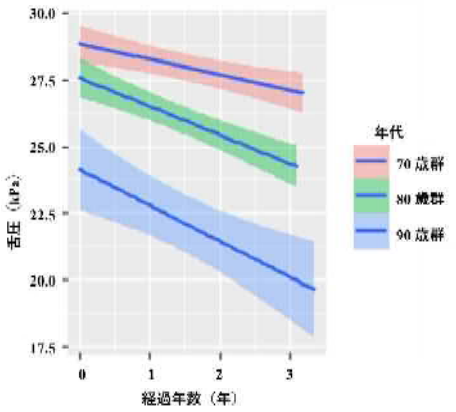

図２　年代ごとの加齢による舌圧の変化

当該臨床研究が「ロの難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のＢＯＸのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可）

■　関連がある

□　関連はない